

横田基地へのC V22オスプレイの配備撤回を求める決議

日米両政府は5月12日、米空軍の垂直離着陸輸送機C V22オスプレイを横田基地に配備することを正式に発表した。

C V22オスプレイは、特殊作戦部隊の輸送・補給が主な任務であり、戦争の最前線で敵の急襲作戦に従事する特殊作戦機である。防衛省資料によっても、沖縄配備のMV22オスプレイと比較し、事故率（10万飛行時間当たりの事故件数）は3倍以上に達している。

そもそも横田基地は人口が密集した市街地に所在しており、アメリカ国内では、公共施設、住宅等を禁止しているクリアゾーンやAPZ1（事故危険地域1）の範囲内に、小学校や保育園、老人ホーム、病院、住宅などが存在している。また米軍専用の横田空域は1都8県にまたがり、日本の人口の3分の1を占める首都圏の上空一帯がC V22オスプレイの訓練空域として危険にさらされ、本市の上空も含まれる。横田基地には既にC130戦術輸送機が常駐し、特殊作戦部隊がパラシュートで降下する訓練が頻繁に行われている。周辺住民は爆音被害と相次ぐ部品落下などの事故の危険にさらされており、中谷 元防衛相が、低空・夜間飛行訓練の実施を明言していることは許されない。

菅 義偉官房長官や中谷防衛相は「アジア太平洋地域の安定に資する」、「大規模災害にも対応できる」などと述べているがとんでもない。オスプレイ配備は新ガイドライン具体化の第一歩であり「戦争できる国」づくりの一環として断じて許されない。また、MV22に加えて横田基地に配備されるC V22オスプレイが飛来し、訓練することになる。

よって、本市議会は、政府に対し、横田基地へのC V22オスプレイ配備の方針を撤回し、米国政府に対して撤回を求める。

上記、決議する。

平成27年6月30日

三 鷹 市 議 会